

令和6年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	78	学校名	茨城県立結城第一高等学校						課程	全日制		学校長名		長久保静江			
教頭名	柴山 佳美										事務長名		尾花 義幸				
教職員数	教諭	20	養護 助教諭	1	常勤 講師	7	非常勤 講師	11	実習助手	1	事務職員	3	技術職員等	4	計	50	
生徒数	小学科		1年		2年		3年		4年		合計		合 計 クラス数				
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科		63	44	51	35	48	35			162	114	9				

2 目指す学校像

校訓「自彊不息」（じきょうやまず：自ら努めて励み、事に当たっては全力を尽くして怠らないこと）を精神的支柱とし、知育・徳育・体育の健やかな成長を図り、社会性や公共心を備えた地域社会に貢献できる有為な人材の育成に努める。 (1) 教育内容や指導方法等の工夫・改善により基礎・基本の定着を図るとともに、自ら学び自ら考え実践する力を育成する学校 (2) 基本的生活習慣の確立を図るとともに、道德教育・特別活動等を通して、規範意識や豊かな心を育成する学校 (3) 特別活動や体験学習等の活性化により、健やかな心身を育成する学校 (4) 生徒一人一人の望ましい勤労観・職業観の醸成を図り、希望進路の実現を目指す学校 (5) 帰国・外国人生徒への教育の充実を図るとともに、日本文化や他国の文化に対する理解を深めた国際感覚豊かな人材を育成する学校 (6) 保護者・地域社会等と連携・協力しながら、常に教育活動の改善・充実を図る開かれた学校

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	○校訓「自彊不息」（じきょうやまず：自ら努めて励み、事に当たっては全力を尽くして怠らないこと）を精神的支柱とし、知育・徳育・体育の健やかな成長を図り、社会性や公共心を備えた地域社会に貢献できる有為な人材の育成に努める。 (1) 教育内容や指導方法等の工夫・改善により基礎学力の定着を図るとともに、自ら学び自ら考え実践する力を育成する学校 (2) 基本的生活習慣の確立を図るとともに、道德教育・特別活動等を通して、規範意識や豊かな心を育成する学校 (3) 特別活動や体験学習等の活性化により、健やかな心身を育成する学校 (4) 生徒一人一人の望ましい勤労観・職業観の醸成を図り、希望進路の実現を目指す学校 6 (5) 帰国・外国人生徒への教育の充実を図るとともに、日本文化や他国の文化に対する理解を深めた国際感覚豊かな人材を育成する学校 (6) 保護者・地域社会等と連携・協力しながら、常に教育活動の改善・充実を図る開かれた学校
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	(1) 教育内容や指導方法等の工夫・改善を図るとともに、習熟度別学習や課外学習等のきめ細かな指導により、基礎学力の確実な定着を図る。また、ICT を活用した授業を推進し生徒の自主的・意欲的な学習態度を醸成し、学習意欲の向上を図る。 (2) 組織的かつ個に応じた生徒指導を行い、基本的生活習慣の確立を図るとともに、道德教育・特別活動等を通して規範意識を醸成し、豊かな心の教育を一層推進する。 (3) 特別活動や体験活動等の活性化により、精神と身体の健全な成長を図る。 (4) 各学年に応じた進路行事や資格取得指導等を通してキャリア教育を推進するとともに、生徒一人一人の望ましい勤労観・職業観の醸成を図り、希望進路の実現を目指す。 (5) 特別の教育課程による日本語指導や生活指導の充実を図り、日本の伝統や文化を尊重するとともに他国の文化も尊重できる国際感覚を身に付ける。 (6) 保護者・地域社会等との連携・協力のもと、情報交換や交流を密にしながら、地域に根ざした信頼される学校づくりを推進する。 (7) これまでの働き方を見直し、 自らの授業改善に取り組むとともに日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで、自らの人間性や創造性を高め、生徒たちに対して効果的な教育活動を行えるようにする。
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	○自分の能力を発揮し、進路実現を目指し、日々努力する生徒

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学 習 指 導	全体的には落ち着いて授業に臨む姿があり、一時間一時間の授業の大切さを自覚して真面目に取り組む生徒が増えている。一方、学習意欲に課題のある生徒も見受けられることから、主体的・対話的な深い学びを育む指導体制（以下、AL 型授業）を構築し学習意欲の向上を図る。	・基礎・基本の確実な定着 ・学習意欲の向上 ・不得意意識の解消 ・家庭学習の習慣化 ・日本語指導の充実（外国人生徒）
生 徒 指 導	日々の登校指導等の成果が現れ、遅刻・早退の多い生徒や服装頭髮指導を受ける生徒が多くなりない傾向を維持できている。また、学校生活が落ち着き始め、授業に取り組む姿勢にも改善が現れている。今後は、生徒一人一人の心の気付きを見逃さない、また内面的意識を変える指導方法の構築を検討している。	・基本的生活習慣の確立 ・服装頭髮指導の徹底 ・欠席、遅刻、早退の一層の減少 ・自己管理能力の向上 ・規範意識や豊かな心の育成
進 路 指 導	学校推薦による就職の内定率は100%を達成することができた。自己の進路について真剣に考え、一生懸命取り組む生徒が増えている。今後は、就職希望者に加え、進学希望者の多様な希望に対応するため、課外指導の充実を含めた指導体制を整えていく。	・早期からの進路意識の醸成 ・自己表現力の向上 ・意欲的な資格の取得

特 別 活 動	体育祭等において活発な活動が見られたほか、生徒の発案による学校行事の内容検討など自主的な活動も芽生えつつある。一方、学校行事・生徒会活動等、全体で見ると、一部指導者からの支援も必要である。 部活動では、加入率が低下しており、部活動の魅力を再確認し、加入率・定着率の向上に努めていく。	・生徒による主体的な活動の促進 ・委員会活動の活性化 ・部活動加入率向上への取り組み ・体験活動の充実
働き方改革	教職員が意欲的に業務を行っている。一方、長時間にわたる勤務や一部の職員に業務が集中しているところもみられることから、業務の効率化と改善について啓発していかなければならない。	・勤務時間管理の徹底 ・業務の役割分担の適正化

5 中期的目標

(1) 教育内容や指導方法等の工夫・改善を図るとともに、習熟度別学習や課外学習等のきめ細かな指導により、基礎・基本の確実な定着を図る。また、AL型授業を推進し生徒の自主的・意欲的な学習態度を醸成し、学習意欲の向上を図る。 (2) 組織のかつ個に応じた生徒指導を行い、基本的生活習慣の確立を図るとともに、道徳教育・特別活動等を通して規範意識を醸成し、豊かな心の教育を一層推進する。 (3) 特別活動や体験活動等の活性化により、精神と身体の健全な成長を図る。 (4) 各学年に応じた進路行事や資格取得指導等を通してキャリア教育を推進するとともに、生徒一人一人の望ましい勤労観・職業観の醸成を図り、希望進路の実現を目指す。 (5) 特別の教育課程による習熟度別日本語指導や生徒指導、キャリア教育を関係機関と連携・協力しながら実施することにより、外国人生徒の日本語習得を図る。 (6) 保護者・地域社会等との連携・協力のもと、情報交換や交流を密にしながら、地域に根ざした信頼される学校づくりを一層推進する。 (7) これまでの働き方を見直し、自らの授業改善に取り組むとともに日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで、自らの人間性や創造性を高め、生徒たちに対して効果的な教育活動を行えるようにする。
--

6 本年度の重点目標

重 点 項 目	重 点 目 標
(1) 基礎・基本の確実な定着 学習意欲の向上	① 教育内容や指導方法等を工夫・改善し、きめ細かな個に応じた「わかる授業」を実践する。 ② 各自の目標設定を明確にし、達成に向けて努力することを支援する。 ③ 基礎・基本の反復学習等により、基礎・基本の確実な定着を図るとともに、AL型授業を取り入れ、生徒が自主的・意欲的に取り組む態度を培う。 ④ 自分の考えを整理し記述する（書く）、伝達する（話す）、他の発言を傾聴する等の指導を充実させ、各自の言語活動や自己表現能力を育成する。 ⑤ 個別指導・習熟度別指導・課外指導等を通して、学習への自信や学習意欲の向上を図る。 ⑥ 予習・復習や課題等を主体的に行うことを通して、学びの習慣化を促す。
(2) 基本的生活習慣の確立 規範意識や豊かな心の育成	① 服装頭髮指導を通して「制服を美しく着る」「身だしなみを整える」ことを強化する。 ② 授業や集会時における心得として、礼法や話を聞く姿勢を育成する。 ③ 挨拶や言葉遣い・態度等の礼儀作法を身に付けさせる。 ④ 公共マナー、社会規範や校則等のルールを遵守する意識を培う。特にSNSについて正しい理解と使い方を習得させる。 ⑤ 道徳教育や講話、読書等を通して、人を思いやる心、協力し合う心、感動する心等の豊かな心を育成する。 ⑥ 個別面談を密にし、保護者・スクールカウンセラー・外部機関等と連携・協力して、学校生活や進路、心の問題等への対応を適切に行う。
(3) 特別活動・体験活動等の活性化	① ホームルーム活動や部活動、生徒会活動等の集団活動を通して、心身の調和と個性の伸長を図るとともに、他を思いやり尊重する等の社会性を育成する。 ② 文化祭や体育祭、クラスマッチ等の学校行事を通して、協力する心や個々の責任感を育む。 ③ 生徒の自主的・自発的な活動を促進し、生徒会活動や部活動の活性化を図る。 ④ キャリアパスポートを用いて生徒と対話的にかかわることによって、生徒の成長を促し、自己実現に向けて系統的な指導を行う。
(4) 希望進路の実現 望ましい勤労観・職業観の醸成	① 早期から進路意識の醸成を図るとともに、自己の適性を理解することにより、進路選択でのミスマッチや早期離職の防止に努める。 ② 生徒の進路希望を把握し、生徒一人一人の能力や適性に基づいた計画的なキャリア支援をする。 ③ 外部講師による講演会や企業見学・インターンシップ等を通して、望ましい勤労観・職業観の醸成を図る。 ④ 社会人としてふさわしい言葉遣いや礼儀作法、身だしなみを身に付ける。 ⑤ 面談や面接指導を通して、生徒の進路希望の実現を支援する。 ⑥ 外国人生徒向けの進路講演会やインターンシップなどを通して、日本での就学・就業に向けて支援する。
(5) 保護者や地域社会等との連携・協力	① 学校の情報を積極的に、かつ分かりやすく発信するとともに、保護者や地域社会等からの意見等を集約・検討し、教育活動の魅力を高めるなどして、一層の理解と協力を得られるようにする。 ② 中学校訪問を密にし、情報交換を通して連携・協力を依頼し、中学校や地域社会等に信頼される学校を目指す。 ③ ボランティア活動や地域の行事には積極的に参加し交流を深め、地域社会に根ざした学校を目指す。 ④ 多文化共生委員会を中心にして、関係機関と連携・協力を図るとともに外国人生徒・保護者の日本語学校教育についての理解を深め、円滑に学校生活が送れるようにする。
(6) 働き方改革	① 勤務時間を客観的に把握・集計するシステムを適切に運用する。 ② 業務の役割分担を見直す。（部活動に係わる業務全般を含む） ③ 適切と言えない業務等を削減する。
(7) 授業改善	① 生徒による授業評価を生かし、観点別学習状況の評価に工夫を凝らすとともに効果的にICTを活用するなどしてわかりやすい授業展開を目指す。生徒による授業満足度（KPI）で肯定的評価3.5以上を目指す。 ② 授業改善推進チームを中心として授業改善に向けた検証と研修を重ね、主体的・対話的で深い学びをより重視した授業改善に努める。 ③ 総合的な探究の時間において教科等横断的な取組を進める。